

今月のトピックス

JCOG2013 食道がんグループ 新規試験

食道がんの治療においては、内視鏡治療の対象とならない切除可能な食道がんに対しては、食道切除術が最も確実な根治的治療法と考えられており、耐術能のある患者さんには食道切除術が推奨されています。

食道がんは、腫瘍進展の早い段階でリンパ節転移を起し、縦隔以外にも腹部、頸部も含めた広い範囲にリンパ節転移を来しやすいことがわかっています。そのため、これまで本邦ではリンパ節郭清を拡大する方向で手術術式の開発が行われており、1980年代に、胸部腹部2領域のリンパ節郭清術に加えて、頸部傍食道リンパ節(101リンパ節)と鎖骨上窩リンパ節(104リンパ節)の頸部リンパ節郭清を追加する3領域リンパ節郭清が開発されました。

頸部リンパ節郭清の対象のうち、101リンパ節は転移頻度の高い反回神経リンパ節(106recリンパ節)と一連のもので解剖学的境界がなく、また郭清効果も高いため、標準的なD2郭清に必須と考えられています。一方で、臨床的に転移陰性と判断された場合の104リンパ節の潜在的転移頻度は術前化学療法が行われる進行癌においても4%と低く、その郭清を省略できる可能性があります。

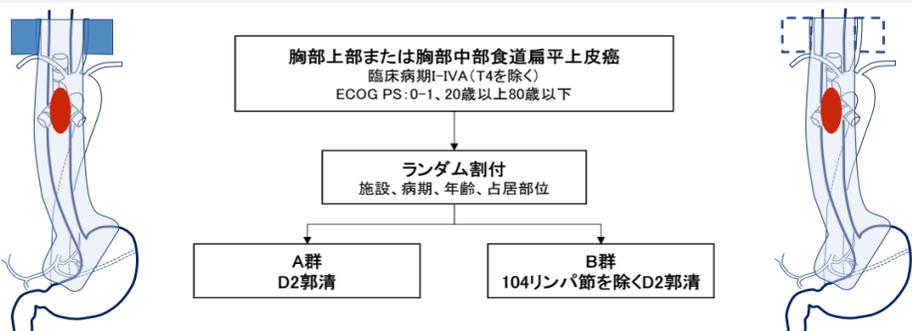
過去の報告では、104リンパ節郭清を含む拡大郭清で術後肺炎が増加するという報告があり、術後に肺炎を起こすと、長期予後が悪化することも知られています。

そのため、104リンパ節の予防的な郭清を省略しても長期予後が悪化しないことを検証するJCOG2013「臨床病期I-IVA(T4を除く)胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験」を計画いたしました。

両側の104リンパ節郭清を行うためには、両側の頸部切開が必要ですが、104リンパ節郭清を省略すると、右側の101リンパ節は胸腔内からも郭清が可能のため、左側の頸部切開のみでも手術が可能となり、手術侵襲や嚥下機能低下による誤嚥性肺炎などの術後合併症の軽減のみならず、必要外科医人数の削減や手術時間短縮など医療経済的なメリットも期待されます。

一方で、104リンパ節郭清の省略により、転移再発をきたすことで後に追加治療を要するリスクがありますが、縦隔内再発と異なりアプローチが比較的容易なため外科的切除や化学放射線療法によって根治が可能であることが多いということも104リンパ節の特徴です。

2018年の立案以来、これまで食道がんグループ、JCOGデータセンター/運営事務局、プロトコル審査委員の皆様をはじめ多くの方々に、たくさんのご指導とご支援を賜り深謝申し上げます。質の高いリンパ節郭清が可能な当グループでしか明らかにし得ない食道外科領域の長年の臨床疑問に答えを出すべく、グループ一丸となって取り組んで参りますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



角田 茂



坪佐 恭宏

今月のトピックス

JCOG患者市民セミナー アドバンス編を開催しました

3月12日に開催した第4回JCOG患者市民セミナー(アドバンス編)では、JCOGでの患者市民参画を今後さらに深め、広げていくことを目的として、これまでにJCOG患者市民セミナーへの参加経験がある方、70名ご参加いただいて開催しました。

総論として「がんと遺伝・遺伝子・遺伝性腫瘍」について国立がん研究センター中央病院遺伝子診療部門の吉田輝彦先生と田辺記子先生よりご講義いただきました。その後、各論講義として、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)ーHBOCの基礎と乳癌、HBOC卵巣がん、家族性腺がん、遺伝性大腸がんの講義を各グループの患者参画委員の先生よりいただきました。最後に参加者がブレイクアウトルームに分かれ、講義についてのQ&Aや受講して気づいたことなどを共有しました。

当日の資料はJCOGウェブサイト「[第4回JCOG患者市民セミナー\(アドバンス編\)開催報告](#)」に掲載しましたのでご覧ください。

JCOGでは引き続き患者参画委員会を中心に、各グループでの意見交換会の推進、および、セミナー開催を通じた臨床研究に関する教育の提供を行っていきます。セミナーは入門編とアドバンス編の開催を予定しております。



吉田輝彦先生



田辺記子先生



枝園忠彦先生



石川光也先生



上野誠先生



高島淳生先生

JCOG研究に関わる研究結果やイベント情報など最新情報を発信しますので、ぜひフォローしてくださいね!

Twitter ユーザーネーム: @JCOG_official URL: https://twitter.com/JCOG_official/

Facebook ページ URL: https://www.facebook.com/JCOG_official

JCOGウェブサイトの[トップページ](#)のパナーからも関連ページへアクセスいただけます。

患者市民参画ポリシーが承認されました。JCOG患者参画小委員会は、「JCOG患者参画委員会」(初代委員長 古瀬純司先生(肝胆膵グループ)、副委員長 丸山大先生(リンパ腫グループ))となりました。

ポリシーでは、JCOGにおける患者市民参画(Patient and Public Involvement:PPI)の定義と基本的な考え方、およびPPI活動の指針を示し、以下の3つの活動を推進していきます。

- ① 研究グループと患者市民との意見交換の推進
- ② 患者市民セミナーの計画と実施
- ③ JCOG試験結果の一般向け公開と研究参加者への結果説明の支援

2022年度より、委員長 丸山大先生(リンパ腫グループ)、副委員長 上野誠先生(肝胆膵グループ)を中心に、PPI活動を進めて参ります。患者参画委員会事務局長 福田治彦

※患者市民参画ポリシーは、[JCOGポリシーページ](#)よりご確認ください。

担当医別月間登録数



- ◇ 肺がん内科グループ(月間登録数:2)
三浦理 先生/新潟県立がんセンター新潟病院
守田亮 先生/秋田厚生医療センター
- ◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:2)
牧佑歩 先生/広島市立広島市民病院
長野匡晃 先生/東京大学医学部
蓮実健太 先生/栃木県立がんセンター
- ◇ 胃がんグループ(月間登録数:4)
西田靖仙 先生/恵佑会札幌病院
- ◇ 食道がんグループ(月間登録数:2)
谷口浩也 先生/愛知県がんセンター
- ◇ 乳がんグループ(月間登録数:2)
高橋三奈 先生/国立病院機構四国がんセンター
- ◇ リンパ腫グループ(月間登録数:4)
高山信之 先生/杏林大学医学部
- ◇ 大腸がんグループ(月間登録数:3)
松末亮 先生/国立病院機構京都医療センター
諏訪雄亮 先生/横浜市立大学附属市民総合医療センター
池田聡 先生/県立広島病院
- ◇ 放射線治療グループ(月間登録数:2)
徳増健二 先生/がん研究会有明病院
松本康男 先生/新潟県立がんセンター新潟病院
萬利乃寛 先生/山梨大学医学部
- ◇ 脳腫瘍グループ(月間登録数:2)
下田由輝 先生/東北大学病院
- ◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:3)
寺島健志 先生/金沢大学医学部
- ◇ 消化器内視鏡グループ(月間登録数:2)
斎藤豊 先生/国立がん研究センター中央病院
西出憲史 先生/国立病院機構四国がんセンター
宮川明祐 先生/総合病院国保旭中央病院
- ◇ 皮膚腫瘍グループ(月間登録数:3)
竹之内辰也 先生/新潟県立がんセンター新潟病院
(担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

グループごと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	1月	2月	3月	合計
大腸がん	55	66	48	169
胃がん	33	38	31	102
肺がん内科	30	29	26	85
肺がん外科	21	15	22	58
乳がん	18	15	24	57
皮膚腫瘍	21	14	22	57
リンパ腫	14	20	20	54
肝胆膵	15	18	15	48
消化器内視鏡	12	14	20	46
脳腫瘍	6	22	12	40
食道がん	10	12	11	33
放射線治療	13	8	12	33
骨軟部腫瘍	6	9	8	23
婦人科腫瘍	10	6	6	22
頭頸部がん	7	8	6	21
泌尿器科腫瘍	1	1	4	6
合計	272	295	287	854



JCOGデータセンターより

● 2022年3月の登録例は287例でした

今月も全てのグループから1例以上の登録がありました。年度末のご多用の折、たくさんのご登録をいただきありがとうございます。

